

伝えよう！ありがとうの気持ちと復興への思い ～復興 PR in タイ～

シンガポール事務所

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、タイ王国においても様々なチャリティイベントが開催され、あたたかい支援が寄せられた。一方で、被災地域の復興の様子を伝える情報は、なかなか隅々まで行き届いていない。このため、CLAIR シンガポール事務所では、タイ王国・チェンマイで 2011 年 12 月 14 日から 2012 年 3 月 14 日まで開催されている国際園芸博覧会（Royal Flora Ratchapruek 2011）において被災地域のパネルを設置し、その支援に対する謝意を表するとともに、当該地域が現在復興に向かって歩んでいる様子を PR することとした。



メッセージと被災地域のパネル

本 PR 事業は、国際園芸博覧会のジャパン・ウィーク期間に行った。ジャパン・ウィークは 2012 年 1 月 14 日から 22 日までの 9 日間で、和太鼓演奏や生け花ワークショップなど、日本にちなんだイベントが行われる中、在チェンマイ日本国総領事館（以下、領事館）の協力を得て、博覧会場内の Expo Center にパネルを設置した。パネルは被災地域の各支部から素材となる写真を提供いただき、タイ王国から寄せられた支援への感謝のメッセージを掲げるものとした。また、領事館では、同時に東北地方を PR するパンフレットを用意し、配布した。ジャパン・ウィークはじめの 2 日間は当事務所スタッフがパネル付近に常駐し、来場者にパネルの説明を行い、被災地域の復興を PR した。また、以後の期間は国際園芸博覧会の主

催団体の1つであるタイ農業省の方に常駐していただき、同様の説明をしていただいた。期間中、延べ1万5,000人がパネル展示を訪れた。なお、パネル側面に来場者から日本へのメッセージを募ると、メッセージ欄は、瞬く間にメッセージで溢れることとなった。内容は、日本を応援するものばかりであった。

さらに、パネル展示の説明に応じていただいたメッセージの一部を、以下に紹介する。

- 「大方大丈夫だと思いますが、食べ物が少し怖いです。でも、日本には災害に負けず、強い日本であってほしいと考えています」(30代・男性)
- 「訪日ツアーが安くなっているので、この機会に旅行したいと考えています」(40代・女性)
- 「タイの洪水後、JICAによる復興プログラムが組まれたと聞いており、本当に感謝しています」(50代・男性)
- 「大変な震災に心が痛み、3日間泣きました。7月にはタイの北部も洪水の兆しが見え始めて大変でしたが、互いに助け合う日本とタイの関係は素晴らしいと思います」(50代・女性)
- 「地震が起きたとき、東京にいて電車に乗っていました。日本人たちは外国人の自分に対しても、避難指示などきちんと世話をしてくれたので、感謝しています」(20代・女性)



パネルを見つめる人、メッセージを書く人たちとたくさんのメッセージ

今回PRを行ったタイ王国では既に訪日観光客がほぼ震災前の水準にまで回復し、2012年1月の訪日旅行者数は1万2,100人で、前年比プラス6%という状況にある(日本政府観光局2012年2月17日時点・推定値)。各国での情報の浸透度、国民性など様々な要因が絡んでの結果ではあるだろうが、他の所管国がこれに続くよう、今後も同様の事業を通じて被災地および日本の復興PRに努め、地域のサポートを続けていきたいと考える。

(タイ・チェンマイ出張時における聞き取り等)

(浜松市派遣・伊藤所長補佐)